



新・包装関連研究「海外の動き」第6回

The 6th APN International

Packaging Symposium

(第6回アジア包装ネットワーク・

包装シンポジウム) 参加報告

農研機構 食品研究部門 食品加工流通研究領域
食品流通システムユニット・上級研究員 北澤 裕明

1. はじめに

私は、フィリピン共和国マニラ首都圏マカティ市にあるデュシ・タニ・マニラ (Dusit Thani Manila) ホテルで、2019年10月22日および23日に開催された標記シンポジウムに招待講演者として参加しました。APNは A s i a P a c k a g i n g N e t w o r k の略です。6回目ということで APN International Packaging Symposium 自体は定期的に行われているようですが (検索しても詳細が見つからない)、今回は翌24日から開催されました ISTA Asia Pacific Packaging Symposium のプレ・イベントという位置づけで、フィリピン共和国科学技術省 (DOST)・産業技術開発研究所 (ITDI)・包装技術部 (PTD) が実行委員となり開催されました。ここでは、シンポジウムの概要について簡単に紹介します。

2. 会場と周辺の状況

マニラ首都圏の南東に位置するマカティ市は、「フィリピンのウォール街」などとも呼ばれるフィリピン国内ではかなり経済的に発展し、また裕福な地域です。ニノイ・アキノ国際空港からはそれほど離れていないはずなのですが、ラッシュ時を中心に慢性的な渋滞が発生しているとのこと、交通状況によっては空港から車で30分以上を要することもあるようでした。

出張手続きの際に、所属する組織からは現地の治安について心配する声も上がりましたが、会場となったホテルの入り口では、所持品も含めた厳重なセキュリティチェックが行われていたほか、麻薬探知犬？が配置され、拳銃もしくはショットガン？を持った警備員がうろうろしているという状況でした。それらのことに加えて、開催中の2日間はシンポジウム会場で缶詰になっておりましたので (写真1)、極めて安全な状態で過ごすことができましたといえます。



3. シンポジウムの概要

発表者以外も含めた参加者の国別の内訳ですが、アジアからは開催地のフィリピン、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、韓国、日本、その他の地域からは、イタリア、デンマーク、アメリカ、スペインからの参加者がいました。日本からの発表者は、後述の小野賢太郎氏と私の2名のみでしたが、会場には JICA の現地事務所に駐在の日本人の方もいらっしゃいました。

発表会場（写真2）は1か所のみでしたが広く、開催中は常に200名程度の聴衆がありました。



写真1. 最前列の指定席（脱走は困難）



写真2. 会場正面の様子



本カンファレンスにおける発表カテゴリーの構成および発表件数（いずれも口頭発表）は、次の通りでした。

・ Plenary Session …… 3

(以下、テクニカル・セッション)

・ Packaging Trends …… 5

・ Smart and Emerging Packaging Technology …… 4

・ Packaging Innovation, Development and Sustainability …… 10

・ Distribution Packaging …… 2

・ Packaging Design, Printing, Branding, Testing and Packaging Regulations
…… 5

Plenary Session の内訳は、それぞれ Save Food のための国際連合食糧農業機関（FAO）の役割、日本における災害食備蓄における包装、およびフィリピン国内の食品廃棄物の削減における包装の役割についてでした。2つ目は、小野賢太郎氏の講演でした。今年の豪雨被害をはじめとした、日本における災害事例およびその特徴とともに災害食に関する要件と事例について大変わかりやすく解説され、聴衆の反応もとても素晴らしいものでした。

Packaging Innovation, Development and Sustainability に関する発表件数が突出しておりましたが、このセッションにはタイムリーなプラスチックの廃棄の現状や循環に関するテーマのほか、食品向けのアクティブ・パッケージに関する話題も含まれておりました。Distribution Packaging（輸送包装）に関する講演は、私を含めて2件しかありませんでしたが、本シンポジウムの翌日に開催されました Asia Pacific Packaging Symposium のプログラムを参照しますと、輸送包装に関するテーマが散見されますので、そちらでの発表がメインだったのかもしれませんが。

さて、私はその輸送包装に関するセッションにおいて、「Paging for Fruits – Requirements and Examples（果実の包装 要件と事例）」と題した約20分間の講演を行いました（写真3）。まず、果実類の品質劣化と生理的要因および物理的要因との関わりについて述べ、次にそれを踏まえた品質劣化対策の要件について解説しました。また、日本における包装設計事例について当たり障りのない範囲で紹介し、最後に将来における包装設計の在り方とそれを実現するための新たな理論構築の必要性について簡単に述べました。

今回のシンポジウムでは、なんと！質疑応答のための時間が設けられておりませんでしたので、聴衆にどの程度、関心を持って頂けたのか把握できておりませんが、何かしら誰かに伝えるものがあつたと信じております。

4. おわりに

本シンポジウムの主催者である DOST のスタッフをはじめ、以前に国際会議や JICA 等のプログラムを通じて知り合った何名かの方と再会を果たすことが出来ました。また、初めて会う人と話してみると、実は共通の知人が居ることがわかるなど、改めて世界は狭いものだと感じました。**3**では、輸送包装に関する発表者が2名しかいなかったことを述べましたが、もの凄くポジティブに捉えれば、少なくとも輸送包装研究のアジア代表（もう1名は、デンマークの方だった）に選ばれたともいえます（勘違い??）。名実ともに輸送包装・食品包装研究の日本を代表できる者に成って参りたいと思います。

シンポジウムの開催中に開かれました APN のボード・ミーティングに急遽、出席を依頼されオブザーバーとして参加しました。日本からもどなたかボード・メンバー

に就任してほしいとのこと、私でよろしければ。と返事をしておきました。まだ、正式な要請を受けておりませんが、前向きに検討したいと考えております。

今回は、マレーシアで開催される予定とまでお伺いしておりますが、開催日時や場所などの詳細は未定です。具体的な情報を受け取りましたら、本協会等を通して皆様と共有させていただきます。

5. 謝辞

本シンポジウムにお招き下さり貴重な講演の機会を賜りました、フィリピン共和国 科学技術省 産業技術開発研究所 包装技術部・主席研究員 Daisy Tañafranca 氏に厚く御礼申し上げます。

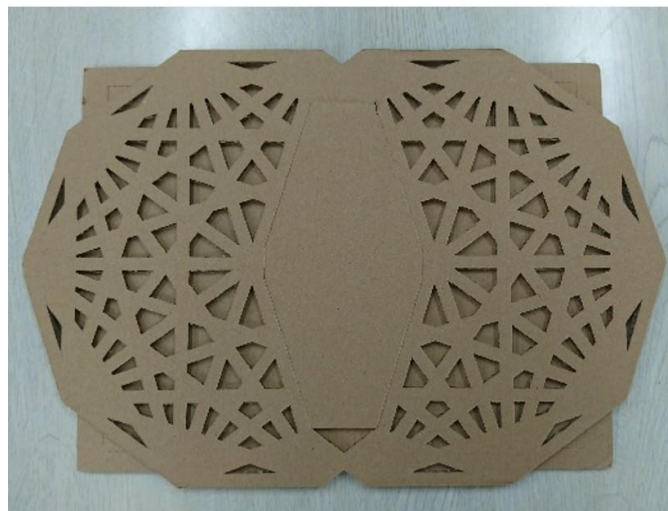


写真3. 段ボール製のフレームに収められた発表証明書（上）とフレームの裏側（下）